

令和 6 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット 大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	令和6年11月26日	評価結果確定日	令和6年12月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和6年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の人と交流しながら、利用者が安心して暮らせるグループホームをめざします」の理念に基づき、地域のボランティアの受け入れ、カラオケ、体操など外部の方との触れ合いを大切にしています。また地域との交流を繋げるために外出に力を入れ、買い物・ドライブ・外食等お出かけが出来るように取り組んでいます。毎日のラジオ体操の後に深呼吸を取り入れたり、身体全体の運動をして体力アップを図っています。家族会・運営推進会議では利用者の状況・ヒヤリハット・行事等を報告・又地域の方の協力お願いしつつ一緒にグループホームを支えていただくよう意見交換を行っています。ミーティングでは、議題に対して毎回活発な意見交換が行われています。又今年からスタッフの個人面談を取り入れその中で、個人目標を掲げてもらい皆がうぐいすの運営理念に向かって同じ気持ちで取り組めるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

朝礼で継続している理念の唱和は、1日の始まりの意識付けや日頃のケアを振り返る機会となっている。今年度は外出の機会を増やし地域交流につなげる予定で、家族に外出の意義や外出時の事故について説明し、ホーム便りに出先での笑顔の写真を掲載している。家族に消耗品を詳細に書面で説明し支払い費目に生活費を設ける同意を得たり、毎月開催していた家族会を新年1月と2か月毎の開催とするなど、家族の意見を反映した運営に取り組んでいる。先月から協力医療機関とチャットワークで入居者のバイタルや状態を共有しながら状態変化に即対応できる体制を構築し、全介助状態で先日退院された入居者は、座位で自力で軟半食を全量摂取し、職員2人体制でトイレでの排泄を支援するまでになっている。最近導入した掃除ロボットが活躍し、業務を離れて昼休みとるなど、生産性向上に向けた業務改善に全職員で取り組み、業務優先ではなく自分の親や親族に入居を勧められる入居者中心のケアで、入居者が安心して暮らせるホームづくりを目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホーム うぐいす**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で理念を唱和し、心新たにして利用者様と笑顔で接するように努めています。	朝礼で継続している理念の唱和は、1日の始まりの意識付けとなり日頃のケアを振り返る機会となっている。今年度は個人やペアリングでの外出の機会を増やし、地域交流につなげる予定である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組合に参加していますので回覧板を通して地域の情報を得ています。出来るだけ行事には参加するように心掛けています。元利用者様家族より清拭の布や野菜等をいただいています。	地区の方から贈呈された千羽鶴を玄関の正面に飾り、元家族から清拭用の布や野菜等の差し入れが継続している。正月明けには、地区公民館で開催されるとんど焼きに参加予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通してグループホームの状況や取り組みを報告している。その中で認知症の理解を深めれるように勉強会を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の運営推進委員会を開催している。その中で活動報告や状況評価を行い、そこでの意見をミーティングで共有しサービス向上に活かしている	近隣の法人事務所で定期的に行われる会議は家族や地区区長、消防署職員や関係部署職員等の参加があり、運営状況や入居者の暮らしぶりを報告している。家族から行事写真のデータが欲しいとの要望があった。前回は暮らしぶりに意見を伺いたいと、会議後参加者に昼食を振る舞っている。	冒頭に理念を記載している運営推進会議録を目に触れやすい場所で公表されるとともに、全家族に個人情報に配慮した会議録を配付し、理念の周知や意見表出を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所から毎月空室の問い合わせがありこちらからも報告することがあります。また、利用者様の状況交換を行っています。	関係部署と居室や入居者の状況について情報を交換したり、参画している地域同業者主催の研修会の講師を市職員にお願いするなど、日頃から協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に、利用者様の変化していく状態を確認しながら、拘束しないケアに取り組んでいます。	定期的な身体拘束適正化委員会やミーティングで勉強会を開催している。出入り口は日中は施錠せず音色が異なるセンサーを設置し、「(家に)帰る」は動向を見守り、夜間や午睡時のみ4点柵でベッドからの転倒を予防するなど、状況に応じた取り組みをしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を中心にミーティングのとき利用者全員の状態を確認し合い、接し方を話合っています。高齢者への虐待、拘束を防ぐパンフレットを活用してます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はおられない。玄関にパンフレットを置き皆の目が触れるようにしています。研修などあれば職員は極力参加するようにしている。	現在まで日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用はないが、随時事業や制度を紹介するために、パンフレットを整備している。地域同業者協議会GHみやわか開催の研修会で、成年後見制度を活用した家族の話を受講している。	今後多様な家族構成が予測されることから、日常生活自立支援事業や成年後見制度の内容やその違いを学ぶ機会を設けられることを期待します。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書を読みながら説明を行っています。また、不安や疑問点なども再度確認して納得していただけるように努めています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月開催している家族会では家族だけで話し合う機会を設け、率直な意見を頂いている。利用者様にも管理者が個別に話し、要望や意見を聞いている。ミーティングで話し合い、対応している	家族に消耗品を詳細に書面で説明し、支払い費目に生活費を設ける同意を得たり、家族の意見で毎月開催していた家族会を新年1月と2か月毎の開催としている。夏祭りでは女性入居者が自ら選択した色柄の浴衣姿で写真に収まるなど、入居者や家族の意見を反映した運営に取り組んでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換の機会を設けています。	理事会でミーティングの議題を検討し、話し合いの内容を理事会で確認している。理事長の運営推進会議後参加者に昼食をとる提案は賛同を得て、成果を上げている。業務割りや年末年始のシフトの手当を話し合い、掃除ロボットを導入し、業務を離れて昼休みを30分とること申し合わせて生産性向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	利益が上がれば臨時手当を支給するようにしています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	定年制度はありますが、健康であれば年齢を理由に採用対象から排除しないようにしています。シフトを組む前には希望休を尋ね出来るだけ希望を聞き入れています。又要望によっては、仕事時間の短縮や半日勤務などの対応も行っています。	ハローワークやロコミで入職した40代～70代の女性職員が、常勤や非常勤、夜勤専従、日勤や厨房のみなど、夫々の状況に応じて勤務している。職歴に配慮したOJTで業務習得を支援し、管理者研修の受講支援、掃除ロボットの導入や昼休みの確保などで、人材育成や業務改善に取り組んでいる。「頑張って70歳まで働く」が目標の職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで利用者様の状況報告等行い情報を共有するようにしています。	身体拘束や虐待防止に関する委員会や勉強会を通じて、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。管理者は無理強いや虐待につながることを周知し、人権や身体拘束に対するアンケートを実施している。	入居者の人権擁護と職員の人権擁護は同義のため、カスタマーハラスメントを組み入れた整備したハラスメント対応指針の整備や周知を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の働ける日数、時間がありミーティングのときに問題点等を話合っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修や勉強会に参加しその中で学んだ知識をミーティングで共有してサービス向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は利用者様に話しかける機会を多く持つように心掛けています。介助中の何気ない会話の中に不安など無いか気に掛けながら接するようにしています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に利用者様に関することなどお聞きして状態把握に努めています。その時に要望・心配事についても確認を行い説明しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴、以前利用されていたサービスなどを聞き取り必要とされているサービスが提供できるのか家族と話し合っています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事は利用者様と同じテーブルで話しながら食べています。利用者様が出来る仕事があれば提供し一緒に作業を楽しんでいます。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナも落ち着き、こちらからの声掛けや、どんどん行事を行っていく事で、ご家族の方も居室で一緒に過ごされたり、外食に一緒に行かれたり、ご家族の協力も増えてきました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出は自由にして頂き、利用者様のお友達や親せきの面会や外出も大いに歓迎し、馴染の関係が途絶えないようにしています。本人の希望があれば電話はしています。	時間や人数などの制限を設けず、居室での面会を支援している。家族の話をじっくり聴き、関係性を配慮して仲を取り持つなど、家族との関係継続を支援したり、馴染みの訪問理美容の利用を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の仲を把握し、トラブルが見られたら席替え・移動をしたりして柔軟に対応しています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の葬儀や初盆には必ずお参りに行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人や家族の方から生活歴を聞き、入居前の情報も居宅ケアマネや病院のソーシャルワーカーからも収集している。	家に帰りたい素振りを察し、「今後はどの色にする」とを声をかけて、職員とマネキュアの色を選んだり、夫婦のやり取りに応じて2人の席を離すなど、場面に応じた対応で思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族などから今までの生活歴や馴染の暮らしを詳しく聞き取りしている。また利用者様同士の会話の中から理解を深まることもあります。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のミーティングでは個別にケアカンファを行い、心身・身体状況、生活状況の把握に努めています。毎日の申し送りや介護経過からも現状を把握するように努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族、かかりつけ医などから得た情報等を基にサービス担当者会議やミーティングで検討を行い、個々の介護計画作成に努めています。	毎月のミーティングで職員の気付きを話し合い、現状に即したケアが日々展開している。先日尿カテーテルを留置し全介助状態で退院された入居者は、座位で自力で軟半食を全量摂取され、職員が2人体制でトイレでの排便を支援するまでなり、全職員で状態変化を共有しながら、体力の回復に伴う自力の移動や移乗時の転倒に配慮している。	本人や家族の意向に沿った課題分析に連動する達成可能でモニタリングが容易な短期目標や、実践している具体的なケア内容を組み入れた介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の朝礼、個別介護記録と介護日誌等で情報を共有しています。ミーティングで話し合い、介護計画を見直している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に応じて介護計画を見直しています。問題点など見られれば、看護師、ケアマネ、職員の意見を求め解決に努めています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出行事や地域の方がボランティア活動に来ていただいたり、個人で馴染みのパン屋に行ったり、地域との交流を絶やさないように努めています		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先するようにしています。当施設のかかりつけ医は往診して頂いています。家族と連携しながら受診を心掛けています。	協力医療機関の定期的な訪問診療だけではなく、先月からチャットワークで全入居者の日々のバイタルや状態を共有しながら、常時の相談や診療で、状態変化に即対応できる体制を協力医療機関と構築している。必要時のみ訪問歯科を受診し、専門科受診は初回は職員、その後は家族にお願いし、受診状況を共有している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に状態把握に努め、少しの変化も看護師、ケアマネに報告・相談しています。看護・介護職員は情報が共有できるよう介護記録や介護日誌に目を通し、口頭での申し送りで利用者の状態把握に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は出来るだけ足を運び、情報収集に努めています。今年もコロナウイルスのため面会できませんでした。病院職員とは日ごろから良好な関係が築ける様グループホームの情報も伝え、共有するようにしています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から運営推進会議や家族会で終末期の在り方について話し合っています。重度化する前に病院、家族、管理者等でよく話し合い、事業所でできる範囲を理解して頂き、ご家族の気持ちを優先で話を進めて行くようにしています。	現在終末期の方はいないが、既往症の重度化で入院した協力医療機関から退院した入居者もあり、病状を主治医とチャットワークで共有しながら、本人や家族の意向をその都度伺いながら支援する予定である。新管理者は前職場で看取りの経験もあり、看取りに前向きである。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に救急マニュアルを作成しており、直ぐに対応できるようにしています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をしています。日中だけでなく夜間を想定した訓練も行っています。その都度関係各所に連絡行い協力を求めています。	消防署立ち合いで避難訓練を実施し、来月は自然災害発生時のBCP研修やシュミレーションを予定している。3日間分の飲料水や食品、台風襲来時の各居室の明かりや在宅酸素療法機器の電源の確保などに配慮し、クラスター発生の経験を活かして感染防止グッズを備蓄している。	地域との協力体制を構築するために、運営推進会議でBCPの研修やシュミレーションにおける課題や対応について報告されるとともに、市の防災体制に関する情報把握を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	笑顔で穏やかな対応を心掛け、利用者様が聞き取りやすいようにゆっくりと話しかける様に努めています。訴えに関しては否定することは避け傾聴し本人様の意向を尊重出来る対応を心掛けています。	氏名での呼称を励行し、業務優先ではなく、自分の親や親族に入居を勧められる入居者中心のケアを管理者は指導している。笑いながら明るく、入居者が聞こえるようにゆっくりと話すことに努めていると話す職員から、入居者の尊厳に配慮した声かけや対応が伺える。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の出来そうな事、喜ばれる事を提供したいと考えています。レクリエーション参加の声掛けを行い、参加は本人様の意向を尊重しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけご本人の希望に沿うように努力しています。特に食事時間、起床・就寝時間は利用者様のその日の体調・ペースに合わせています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度散髪に来て頂いています。又行きつけの美容室に行かれる方もいます。ご本人希望で毎朝・入浴後のスキンケアをいつでも行えるように自室に携帯している マネキュアが好きな方もいつでも出来るようにしている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時には好みを尋ねています。利用者様の誕生会はケーキを食べて頂く、旬の物や畑の野菜で食事を作っています。テーブルを拭いたりして手伝ってくださいます。	好みに応じて、ご飯をうどんになど代替食を用意しているが、好みでない魚が食べられるようになった入居者もある。旬の食材や畑の野菜を使った手作りの食事が食卓に並び、職員も同じ食事を同じテーブルで和気藹々としている。ミキサー食の介助もあるが、職員の見守りや声かけで全員が完食している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えて毎月メニュー表を作成しています。食事・水分量は個人別に記録し把握するようにしています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア支援を行っています。訪問歯科も実施していましたが、今年は特に問題があった方のみ受診しました。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせて、トイレ誘導を行っています。排泄管理表に時間を記入して、尿意・便意の無い方には時間を見て声掛けや誘導を行っています。	車イスを自走しトイレに行く入居者もある。日中は排泄パターン、尿意や便意の有無など夫々の状況に応じた排泄を支援し、夜間は睡眠を重視し紙オムツを使用し尿取りパットを交換している。退院後初めて便意を訴えた入居者を2人体制でトイレでの排泄を支援するなど、心地良い排泄を支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、毎日排便チェックを行い、腹部マッサージや追加便秘薬を施行しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本午後からの入浴で週2回以上は入れるように計画しています。利用者の方で午前が入りたい方は午前に変更したり、なるべく希望に沿って入浴出来るように配慮しています。入浴拒否見られる方には声掛けの工夫をしたり、翌日に変更するなどしています。	個浴槽が設置された浴室は清掃が行届き、エアコンや大型キャスター付きシャワーチェアが設置されている。2人体制での入浴支援や好みのシャンプーなど持ち込みも可能で、入浴を拒否される理由を理解した声かけや入浴剤の使用などで、入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて午前・午後と臥床対応を行う方もいます。午後の昼寝は強制的ではなく、休まれない方はリビングで自由に過ごして頂き夜眠れるようにしています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合った服用方法で服用して頂いています。薬の変更があった時は様子観察を行い体調変化に気を付けています。内服薬一覧表も各利用者毎にファイルしてあり、いつでも確認できるようにしています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る仕事(洗濯物たたみ等)お願いしてお手伝いして頂いています。週刊誌や新聞を読んで気分転換などをされています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様全員での外出もありますが、それ以外には、希望の場所や馴染みのある場所に個別やペアリングにてドライブや外食や買い物などの外出支援を行っている	家族に外出の意義や外出時の事故についても説明し、車椅子のまま乗ることができる法人車両などで外出し、その折の笑顔の写真をホーム便りに掲載している。米寿の祝いの外食を家族の協力や送迎で叶え、楽しみにしている家族との外出や外食が継続できる手立てを検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別での外出時にお金をお渡ししてご自分で、お支払いをしていただくようにしています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様から希望があれば電話をかけて取り次いでいます。施設からは本人様の状況報告の際家族の方へ電話をかけて頂けるようお願いの手紙を送付しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事の写真を貼っています。季節感を取り入れた壁(利用者様と一緒に作った)の環境整備を展示しています。	玄関口に飾られたクリスマスツリーが訪問者を出迎え、吹き抜けの天井で広く明るい居間からラジオ体操の掛け声が響き、傍の厨房から美味しい匂いが漂っている。中央にテーブルや椅子、壁際にはソファが設置され、壁には入居後最初の誕生日にドレスアップした写真や行事や外出時などの写真が掲示されている。「文句も言わずよく働くねえ」が入居者の口癖になる程、最近導入した掃除ロボットの活躍で清掃が行届き、居間で寛ぐ入居者が多い。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームや玄関近くにソファを置き、自由に過ごして頂いています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に自宅で使用されていた家具等を持って来ていただいています。家族写真や、母の日の手紙などを壁に貼られている方もいらっしゃいます。	居室入口には氏名やカラーの顔写真が掲示され、ベッドとクローゼットが設置された居室は整理整頓が行届き、手作りのクリスマスリースを飾っている。持ち込んだ健康機器で下肢筋力アップに励んだり、自宅で飼っていた犬の代わりにぬいぐるみを抱いて寝たり、窓の外に吊るしたプランターで花を育てる等、夫々が居心地良い暮らしを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置しています。廊下の手すり伝いにリハビリをされている方もいらっしゃいます。トイレや浴室も分かりやすい言葉で書いています。		